
遊戯王 魔法使いを使う決闘者

白夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 魔法使いを使う決闘者

【Nコード】

N0816X

【作者名】

白夜

【あらすじ】

遊戯王が大好きな少年、あまつぎゆうや天月遊夜は事故に遭った、そして、目が覚めると、目の前に神がいた。その神からの言葉は転生。しかも行く世界は遊戯王。「神様がいつて言うなら、自分の好きなように生きよう。」これは、転生した少年が気ままに生きていく物語。(注)作者の決闘レベル…低いですが、なので、小説のデュエルタクトイクスも必然的に低くなると思いますので、ご了承ください。

プロローグ（前書き）

今回で小説第三弾となります。ネギま系のネタが思いつかないので、気分転換に書いてみました。

プロローグ

俺の名前は天月遊夜^{あまつきまゆしや}、よろしくな！

…だが俺は現在進行系で困っている、何故か？それは車にはねられ、死んだかと思えば、真っ白な空間にいて、いきなり現れた光の玉が老人となり、謝ってきたからだ。

「…すまなかつたな。」

「…何がですか？」

「君を死なせてしまったことだ。」

「…やっぱり俺は死んだのか。」

まあ、死んだとしても、家族は放任主義、友達は…悲しむか、だが時間が過ぎれば忘れるだろう。
現世にもあまり思い入れがないから、死んだとしても問題はないがな。

「…ああ。」

「で、俺はどっちへ行くんだ？天国か？地獄か？」

「いや、転生じゃ。」

「…えっ？」

転生？あのネット小説とかでよくやるあれか？

「いや、世界は複数とあってな、ちょっとしたことで増えるのだ。」

「ちょっとしたことはなんだ？」

「現世では漫画、小説などが増えるなどだ。」

「…つまり、多くの人に知られる物語は現実となり新しい世界になるのか？」

「そう思ってくればいい。所詮、パラレルワールドというやつだ。」

「で、俺はその中のどれかの漫画、小説の世界に行くってわけか？」

「ああ、お前が行くのは遊戯王とやらだ。」

「なぜそれを？」

「お前の記憶を見た限り、それが一番記憶の中の存在が強かったからな。」

確かに、家に家族のいなかった俺は良く家で遊戯王オンラインとかタグゲフォースTFをやっていたしな。

「…で、その世界に行くときに何かくれるのか？」

「ふむ、ならば、これでどうだ？」

そう言っと神は鏡を取り出し、俺に渡してきた。

「鏡？これがどうしたって、ええ…？」

鏡に映っていたのは、某黄金の正三角を宿す勇者の顔を遊戯王っぽくしたものだっただ。

これ俺じゃない…。

「あとは、現世で使っていたデッキ類とそのサポートカードやサイドデッキ、また死なぬように護衛用の精霊を付けておこう。」

「あ、ああ、ありがとう。」

よくわからんがこうなりゃやけど、とことんやってやる！

「ならば、送る場所はアテムとやらが帰った冥界の扉からじゃ。そこが通り道なのでな。」

「その名の通りだしな。」

「じゃあ、送るぞ。今は何時かなどは荷物と共に手紙を添えておくから、あとは頼むぞ。」

神がそう言つと、ウジャトのマークがある扉が現れた。そこでふと、思い出したことを聞いた。

「そこでは、原作破壊などはしてもいいのか？」

「大丈夫だ。問題ない。」

「そうか、じゃあ、俺、いくよ。」

「死なぬよう気をつけろ、後が大変なんだから。」

その言葉を背に、俺は扉へ入っていった。

持ち物確認（前書き）

これを読んでくれてる人、ありがとうございます。こんな駄文を
読んでいただき、光栄です。

持ち物確認

扉を超えた俺の目に飛び込んできたものは、王の記憶の石版、そしておそらく神が送ってきてくれた俺の荷物であろう。俺はそこからデッキを取り出し、腰のベルトに装着する。そして、何故かデュエルディスクが入っていたので、それも装着してみた。

「おお、マリクが言った通り意外と軽いんだな。」

デュエルディスクを堪能したあと、遊夜は添えてあった手紙を読み始めた。

『これを読んでいるということは、君は無事にたどり着いたということだろう。とりあえず、そっちの流れはバトルシティとやらの始まる前に送った。ポケットに財布と通帳を入れておいたからそれで日本に行ってくれ。金は定期的に送らせるから。 by 神』

「金が、まあ、見てみるか。」

そう言い、ポケットから通帳を取り出し、見てみると、

「え…？財布に約10万、通帳に1億…？いくらなんでも出しすぎじゃあ、しかも定期的に送るって…。」

『マスター、グダグダ言っていないでさっさと日本へ行ってはどうでしょうか？』

驚いていると、不意に声が聞こえた。

「…ああ、護衛用の精霊か。」

『そのとおりです。マスター。』

そう言い、現れたのは、ブラックマジシャンだった。

「ブラックマジシャンって武藤遊戯の精霊じゃ…?」

『マスター、同じカード精霊は一人だけとは限りませんよ?』

「そ、そうか。」

どうやら、同じカードの精霊は一人だけとは限らないようだ。

『それよりも、早いところ日本にいかないと、バトルシティが始まってしまうですよ。』

「そうだな、でも、ブラックマジシャンじゃ長すぎるから、名前をつけたほうがいいか?」

『そうですね、我ら精霊といえど名前は欲しいものです。』

「そうなのか、じゃあ後で決めておくよ。」

『ええ、ありがとうございます。マスター。』

「ああ、後、マスターはやめてくれ、遊夜でいい。」

『はあ…わかりました。遊夜、これでいいですか?』

「ああ、それでいい。マスターなんてかたつくるしいのはいやだからな。」

『ふふふ、変わった人ですね。では、参りましょうか、日本へ。』

「ああ、案内を頼むよ。」

『はい。』

そのあとは、エジプトの人たちの言葉はわからなかったが、ブラックマジシャンが翻訳などをしてくれたおかげで助かった。飛行機の手ケットは何故かブラックマジシャンが持っていた。

〈飛行機の中の会話?〉

「そついやデッキ確認してなかったな、どついう感じが見てみるか。」

『遊夜のデッキはこつちでは使える強欲な壺などのカードも入れてみては?』

「そつだな、俺はあまり強くないから、デッキのチューニングを助けてくれると助かる。」

『遊夜がそう望むなら。』

〈飛行機の中の会話?〉

「そついや、お前以外の精霊っているのか？」

『私にはわかりませんが、多分もう一人ぐらいはいるのではないでしようか？』

「そつか、ありがとう。」

大波乱を呼ぶバトルシティ開幕まで、後少し。

持ち物確認（後書き）

精霊はブラックマジシャンにしました。個人的に好きなんですよ、ブラマジは。

名前…どうしようか、まあ、俺は後に考えておこう。

あと、最後のは特に意味はありません。伏線？という感じにしておこうかと思えます。

ドミノ町、遊戯たちとの遭遇（前書き）

ドミノ町についたのに、まだバトルシティが始まらない……。
というか、決闘すらしてない……。

まず、原作キャラと関わらせないとまずいのでここで出してみま
した。

一応、主人公が何も付けない文章が心に思ってることで、

（ ）が主人公以外のキャラの思っていること、

『』が精霊の喋っていることです。

主に不意打ちで

「龍児よ！遊戯に敗北した貴様はもはや俺の息子などではない！」

・・・うん、完璧原作だね。ああ、王様の私服、見られると思ってたのに…。

「もうお前に期待することは何もない！俺が自らの手で復讐を果たす！」

しまったかな？ここは遊戯が2度目の千年パズルを組み立てる、下手すると死んでたかもしれない場面だっけ？仕方がないか、多分大丈夫だと思うが、行ってみるか。

「ちょっとどいてくれないか？」

「！？お前は誰だ！？なぜここにいる！？」

「話はあとだ、今は遊戯達と千年パズルを優先しろ。」

あかないか、原作で言った通り内側からしかあかないのか。

ガンツ！

っ！？今の音は千年パズルの鎖を打ちつけたところか

「行けるか？ブラックマジシャン。」

『行けます！』

「ひゃあああああああああああ！！！！」

「！？」

「今の声は、御伽くんのお父さんの！？」

「！！なから煙が！」

くっ、間に合わなかったか！

「獏良！！！」

「城之内君！！皆！！！」

おお、登場か！遊戯を火事の中から助け出した友情に熱い男、城之内克也！

「遊戯は！！！」

「すまない、手っ取り早く説明するぞ！」

「誰だお前は！」

「すまないが黙って聞いてくれいいか、まず、千年パズルを狙ったそのやつが父親が遊戯の千年パズルを組み立てようとしたが、パズルの怒りで出来なかった、しかも投げ捨てたパズルがテーブルのろうそくにあたって火がつき、今に至る！」

「な、なんだと！」

「お前はこの扉を壊せるか!？」

「はっ!壊せるか壊せないかじゃねえ、やるんだよ!」

「やっぱかつこいいな城之内!…俺も手伝おう。」

ドガアアアン!

「待ってる遊戯!今助けてやっからな!」

「城之内君!」

「本田!あとそこのお前!行くぜ!」

「おう!」 「了解だ!」

バキイイツ!!

「よし!扉が開いたゾ!」

「遊戯!」

『お疲れ様でした、遊夜。』

「ふっ、まっただ。」

「城之内君、本田君!」

「御伽君!早くお父さんを連れ出して!」

「ああ！」

「遊戯、すぐ火が回る！行くぞ！」

「遊戯！行くぞ！」

「…僕は…パズルを置いていけない！」

「…！！（パズル…！！）」

ジュ… （熱っ…！！）

（パズルが！鎖が外れねえ！）

「僕はここでもう一度パズルを組み立てる！」

「バカ野郎！何言ってるんだ！すぐにここを離れなきゃ焼け死んじゃうだろ！」

「僕はもう一人の僕を置き去りなんてできない！僕が見捨てて焼け落ちたらパズルはもう僕の手には戻って来ないんだ！」

…あれって、そう簡単に焼け落ちたりしない代物だと思っるのは俺だけか？まあ、気持ちはわからないことはない、大切なものがなくなってしまう時の気持ちは何を起こすかわからないらしいな。

「ここで、一人でパズルを作らせて！最後にもう一人の僕に会わせて…！」

「最後まで「馬鹿かなのかお前は」お前！？」

「最後だと！？お前は何をパズルに望んだんだ！友達が欲しい、だろ！最後じゃない、生きて戻れ！それをパズルの意思是望んでるはずだ！」

「き、君は…？」

「俺のことは後でいい、今は千年パズルを組み立てることに集中しろ！」

「う、うん、分かった！」

「遊戯、無理じゃ！火が回るまでの時間でパズルを組み立てることなど…「無理じゃない。」「え？」

「武藤遊戯！2度目の組み立てで、お前は何を望む！？」

「僕は…もう一人の僕に会いたい！」

「それでいい、パズルはそのものの心で所有者を決める！それまで行ける限りは俺たちが守ってやる！」

「おい、お前何勝手なことを！」

グラッ・・・

「遊戯！危ない！！！」

仕方がない、実体化はできるか？ブラックマジシャン！

『行けますよ、遊夜！』

よし、行くか！

『「黒・魔・導　！！」』

ズガアアアアン！！

…え、2500でこんな強いのか？え？じゃあカイザーの16000
0って実体化したらやばくない？しないけど、

そう思いながら振り返ってみると、唾然とした表情で俺を見つめて
いた…動こうぜ…

「おい、遊戯、早く千年パズルを組み立てろ。そしてあんた等は早
く外に出ろ！危ないから。」

「でも、目的もわからない赤の他人に遊戯をあずけるなど…。」

「なら、俺も一緒に残って遊戯を待つぜ！」

「…遊戯を頼んだぜ、城之内、遊戯を必ず連れて帰ってきてくれ。
…そしてお前、帰ってきたらいろいろ聞きたいことがある、逃げる
なよ。」

「ああ、分かった。」「ああ、心配すんな。」

（俺はまだコノヤローを信用は出来ないが、遊戯、絶対に三途の川
はわたらせねえ！岸まで行ったら、てめーをぶん殴っても連れ帰
るぜ！）

…くっ…、熱いな、色々ばやけてきてるな…。

「ブラックマジシャン、今、パズルはどうだ…？」

『はい、いま、ほとんど出来てきています。』

…早いな、それに 黒・魔・導 で落ちてくるものを壊しているから結構うるさいと思うのに、まるで気にしていない、…っ！城之内が走りだした！パズルができたのか！ならもうここに用はないな、二人を連れて外まで行くだけだ！

「よける！ 黒・魔・導！」

ドガッ！

「さっさと行くぞ！ブラックマジシャンが道を作る！そこを通ってきてくれ！」

くそっ！目がかすむ！いくらブラックマジシャンが魔力で俺や遊戯たちの体を被ってくれていても、熱すぎる！

「見えたぞ！出口だ！」

『では、私は見つかるはずいのもう一度精霊化します。』

「ああ、ありがとう、ブラックマジシャン。」

俺たちが外に出ると、遊戯の親友達が集まってきた。

「遊戯！城之内！お前も無事だったか！」

「ああ、こいつが助けてくれたからな。」

そうやって俺を指さしてくる城之内、やばい…ブラックマジシャンを、精霊を無理矢理実体化させたから、体への負担が…。

そこから、俺の意識はブラックアウトした………。

ドミノ町、遊戯たちとの遭遇（後書き）

バトルシティ開幕までまだまだ掛かりそうです。

主人公のこと、どう説明しよう…。

ブラックマジシャンの名前、出来たらコメントをください。

次回は、多分、病院で決闘をします、ペガサス島編ではなく、生贄が必要なバトルシティルールで。

病院で和解、そしてデュエル（前書き）

ちなみに、遊夜は精霊の同意があれば実体化の負担はないが、前回は勝手に実体化させたので、負担がきました。その負担は、モンスタールレベルが高いほど大きくなります。ちなみに、駄文のデュエルです。デュエルって書くの面倒くさい…。

病院で和解、そしてデュエル

俺が目を覚ますと、そこは知らない天井だった。

「知らない天zy」あ、起きたんだね！」最後まで言わせてくれ…。

「

あのセリフを言ってみようとしたが、俺が起きたと気づいた遊戯の
声にかき消された。

…城之内たちもいるね、…あれ？御伽は？まあいいか。

「よう、お前たちも千年パズルも無事だったのか。」

「うん、おかげさまでね。」

無事なのは分かっていたが、やはり本人から聞くと安心する。

「そうか、…なあ、アテ…もう一人の遊戯は出られるか？」

あぶねえ…思わずアテムと言ってしまっところだった！

「そのことだけど…何故、それを知ってるの？」

…やっぱり聞かれるか。ほかのみんなも聞きたがってるし…言っ
て
も
い
い
か
な
？

『いえばいいじゃないんですか？遊夜。』

いきなり出てこないでくれ、遊戯たちもびっくりしてるから

「それ、やっぱりブラックマジシャンだよね…。」

これは言ってもいいか。

「ああ、このカードには精霊が宿ってるからね。」

「は？カードに意思がつくことなんてあるわけないだろ？」

「いいや、ペガサスはエジプトの壁画にあったものを千年目と共に
カードに封印した精霊が宿るカードがごく一部あるんだ。」

「そんなことが…」

いやいや経験あるだろペガサス島編で

「海馬瀬戸のデッキを奪ったプレイヤーキラーが出した青眼も消え
ただろ、あれも一応精霊カードだ」

「なっ！海馬の青眼は精霊のカードなのか！？じゃあさ、俺に精霊
は付いてるか！？」

「どうだ？ブラックマジシャン？」

『いないですね。千年パズルを持ちし少年のデッキの私とクリボー
は精霊ですが。』

あ、やっぱり？

「え？僕のブラックマジシャンとクリボーも精霊なの？」
『俺も初めて知ったぜ』

「俺にはいないのか……。」

アテム出てきた… あ、城之内が落ち込んでる。…ってあ、

「忘れてた。俺の名前は遊夜、天月遊夜だ。」

「あ！そういえば名前をまだ教えてなかったね、僕は「知ってるぜ、ペガサスのマインドスキャンをもう一つの心とマインドシャッフルと千年パズルの結束の力で打ち勝った武藤遊戯だろ。」…だからなんでそんなこと知ってるのさー！」

ふ、だが俺はまだ言わない、あえて無視をする！

「で、そっちが真紅眼レッドアイズと千年竜サウザントドラゴンを駆使して勝った…と言っても、真紅眼はもとは竜崎のカードか、準優勝者、城之内克也。」

「おお！俺も有名になったものだぜ！」

あ、喜んだ、妹の手術代のために出場した初心者が良くいけたよな。

「なあなあ！デュエルしようぜ！」

いきなり何を言うのさ城之内君断る理由がないからもあるが、

「売られたデュエルは買うのが礼儀だ！」

デュエルに關すると、こごう性格になるんだよなあ…。

「よっしゃ！じゃあいくぜ！」

遊夜 LP4000 城之内 LP4000

「俺の先行！…俺も大概チートドロいな…。」

遊夜 手札5 6

いくらなんでもこの手札は…。

「どうしたんだ？」

ブラマジガール…今見せてもいいのか？いいよな。

「なんでもない、俺は召喚僧サモンプリースト（攻撃力800）を召喚そして効果で守備表示になる（守備力1600）、そしてデイメンションマジック、場の魔法族モンスターをリリース、もとい生贄にして手札から魔法使い族を特殊召喚する。俺はサモンプリーストを生贄とし、ブラックマジシャンガール（攻撃力2000）を召喚、そして手札から魔法カード発動、賢者の宝石、これは場にブラックマジシャンガールがいる場合発動できる、手札、デッキからブラックマジシャン1体特殊召喚できる。こい、ブラックマジシャン（攻撃力2500）。」

遊夜 手札6 2

場

- ・ブラックマジシャン（攻撃力2500）
- ・ブラックマジシャンガール（攻撃力2000）

「手札からフィールド魔法発動、魔法族の里、これは自分の場に魔法使い族がいる場合のみ、相手は魔法が使えなくなる、俺の場に魔法使い族がいなければ、俺は魔法カードが発動できない、城之内も魔法使い族を召喚するか、俺の場のモンスターを全滅させるかをすれば魔法が使えるようになるぞ。」

そして、魔法カード発動天よりの宝札、このカードはお互いの手札が6枚になるようにドローする。俺の手札は0、よって6枚ドロー。」

「俺は一枚ドローだ。」

城之内の顔に焦りが見えないってことは時の魔術師が罠カードが手札にあるのか。

でも、なんかごめん、城之内。

「場のレベル6以上の魔法使い族2体をリリースし、手札から黒の魔法神官（攻撃力3200）を特殊召喚！」

「こ、攻撃力3200だと!?!」

これが今の俺のデッキの切り札なんだぜ！そして城之内！こいつは只単に攻撃力が高いだけじゃないんだぜ！

「こいつの効果はこのカードが場に出ている間、罠カードの発動と効果を無効にすることができる！」

「な、なんだと!」

城之内のデッキは罠カードでモンスターを奪うのが主なデッキ、な

ら、罨を無効にすれば怖くはないぜ！

「俺は魔法族の結界を発動し、カードを伏せ、ターンエンド！」

確かバトルシティは場には5枚しか置けなかったよね、魔法、罨も1ターンに1枚ずつしかふせられなかったし。そして、王宮のお触れが来ない。

遊夜 手札6 3

場

・黒の魔法神官（攻撃力3200）

・魔法族の結界

・罨カード

・魔法族の里

「俺のターン！」

城之内 手札6 7

「天月！お前、すげえな！」

「遊夜でいい、城之内、お前のデッキとの絆を見せてくれ！」

「ああ！見せてやるぜ遊夜！！いくぜ！時の魔術師（攻撃力500）！」

「やっぱりあったか！時の魔術師！」

「効果発動！コイントスをし、表が出たら相手モンスターを全滅さ

せ、裏が出たら俺の場のモンスターが全滅し、その合計の半分のダメージを受ける！いくぜ！コイントス！…表だ！いけ！タイムマジック！」

ああ、俺の切り札が一瞬でやられた・・・。

ベッドの上でやってるからソリットビジョンシステムがないが、あったらどうなってやられていくのかが気になる…。

魔法族の結界カウンター 0 1

「さあ行くぜ！時の魔術師でダイレクトアタック！」

だが、ダメージをもらう気はないぜ！

「リバースカードオープン！マジシャンズ・サークル！」

「何！？」

「このカードは魔法使い族の攻撃宣言時に発動できる！お互いのデッキから攻撃力2000以下の魔法使い族を1体特殊召喚する！」

「くっ、俺のデッキにはもう魔法使い族はいないぜ・・・。」

「なら、俺だけが召喚だな、来い！霊滅術士カイクウ！（攻撃力1800）」

俺のデッキの低レベルアタッカー其の一だ！

「くっ、攻撃を中断！メインフェイズ2でカードを2枚セット！ターンエンド！」

城之内 手札 7 5

場

- ・時の魔術士(500)
- ・伏せ魔法カード
- ・伏せ罨カード

「俺のターン！ドロー！」

遊夜 手札 3 4

場

- ・霊滅術士カイクウ(攻撃力1800)
- ・魔法族の結界カウンター 1
- ・魔法族の里

(俺の手札に除去カードはないが、ここは、臆せず踏み込むぜ！)

「俺はクルセイダー・オブ・エンディミオン(攻撃力1900)を召喚！そしてカイクウで時の魔術師を攻撃！」

「リバーズカードオープン！天使のサイコロ！このカードは攻撃力500以下のモンスターをサイコロの出た目だけ倍加する！そして悪魔のサイコロ！このカードはサイコロを振り、でた自分攻撃モンスターへの攻撃力を割る！…出た目は4と2！時の魔術師の攻撃力は2000！カイクウの攻撃力は900だ！タイムマジック！」

「ぐっ！」

おいおい、まさかのサイコロコンボか、アニメ版卑怯すぎるだろ悪魔のサイコロ！収縮の運だより版とはいえ、上位じゃねえか。だが、魔法族の結界にカウンターが乗る！

魔法族の結界カウンター 1 2

遊夜LP 4000 2900

「おれはカードを1枚伏せ、ターンエンド。」

遊夜 手札 4 2
場

・クルセイダー・オブ・エンディミオン（1900）

・伏せ罫カード

・魔法族の結界カウンター 2

・魔法族の里

「俺のターン！」

城之内 手札 5 6

「俺はパンサーウォリアー（攻撃力2000）を召喚！」

今だ！

「リバーズカードオープン！魔法族復活の棺！このカードは相手がモンスターを召喚したとき発動可能！そのモンスターと自分の場のモンスター、クルセイダー・オブ・エンディミオンをリリースし、墓地の魔法使い族モンスターを特殊召喚する！甦れ！ブラックマジシャン（攻撃力2500）！」

「ぐっ、だが、時の魔術師の効果発動！コイントス開始、…失敗…
…だど…」

いやいや城之内、そんな連発してたらどれかは外れるさ。むしろ王国で一回しか失敗しなかった君の運の良さがほうが異常なんだが。

「くっ、効果で自分の場のモンスター、つつつても時の魔術師しかないんだが、を全て破壊し、その攻撃力の合計の半分のダメージを受ける！」

ついでに場の魔法使い族が破壊されたことで魔法族の結界にカウンターが乗る

魔法族の結界カウンター 2 3

城之内 LP 4000 3750

城之内 手札 6 5

「カードを伏せ、ターンエンドだ。」

城之内 手札 5 3

場

- ・伏せ魔法カード
- ・伏せ罨カード

「俺のターン、ドロー」

遊夜 手札 2 3

場

- ・ブラックマジシャン（攻撃力2500）
- ・魔法族の結界カウンター 3

・魔法族の里

「…俺は手札から魔法発動、黒・魔・導！これはブラックマジシャンが場にいる場合、相手の魔法・畏をすべて破壊する！」

「ぐうっ！」

破壊されたのはスケープゴートと落とし穴か、あぶねえ…

だが、俺の手札に攻撃力1250以上のカードはねえ…。なら！

「俺はガガガールを召喚！そして、魔法族の結界の効果発動！このカードと場の魔法使い族を1体墓地に送ることで、カウンターの数だけドローする！」

遊夜 手札3 2 5

来たぜ、第3のエースモンスター！

「俺は墓地の光属性、クルセイダー・オブ・エンディミオンと闇属性、黒の魔法神官を1体ずつ除外し、カオス・ソーサラーを特殊召喚！」

遊夜 手札5 4

「2500と2300…俺の負けか…。またやろっぜ！次は負けねえからよ！」

こう言われたら、こう言い返すしかないだろ！

「ああ、だが俺ももつと強くなってるから、負けねえぜ！いけ！2
体でダイレクトアタック！」

ブラックマジシャン（攻撃力2500）
カオス・ソーサラー（攻撃力2300）

城之内LP3750 1250 -1150

遊夜LP2900

「はあく、負けかあ…。」

「なあ、手札を見せてもらっていいか？」

「ああ！いいぜ！」

そう言つて手札を見せてくる。…残りの手札がルーレット・スパイ
ダー（魔）と確率変動（罫）、鉄の騎士ギアフリード（攻撃力18
00）かよ、…魔法族の里なかつたら負けてたかもしれないな…。
え？てか確率変動つてRのカードじゃ…。

「いいデュエルだったよ！」

「ありがとう、武藤。」

「遊戯でいいさ！それより、その魔法使い族デッキ、すごいね！デ
イメンションマジックで上級モンスターを召喚しつつ、相手モン
スターを破壊して、なおかつ魔法族の里や黒の魔法神官でロック、す
ごいよー！」

これはアニメ版のカード（天よりの宝札、黒魔族復活の棺）もいれたから強いのであって、元の世界じゃ勝ち数はまあまあだったけどね。それより、なぜかもう警戒心が薄れていつてるんだけど…。

『クリクリ〜。』

「え？クリボー？」

「うん、そうだよ。クリボーはこの人は悪人じゃないって。」

…あるえー？この時って、遊戯精霊見えてたっけ？

なんかもうすでに原作崩壊し始めてないか！？

…まあいいか。何かどつと疲れた。

病院で和解、そしてデュエル（後書き）

今回はじめてのデュエルでしたね。今回は、時の魔術師が魔法じゃない、確率変動がある。ちなみに確率変動を引いたのはパンサーウオリアーを召喚したターンです。ガガガールはガガガマジシャンとあわせて黒の魔法神官を呼べるようにと調整した結果です。次回はグールズとデュエルでもしてマリクに目をつけられるかな。

グールズ(前書き)

デュエル内容が地味になりました。すいません。やはり、シンクロナ
無いと展開力が…。

グールズ

よう、俺の名前は天月遊夜、病院で遊戯たちと仲良くなって、遊戯にブラマジの名前をつけてもらった。名前はシーク、ゼル○臭がするが、シークレット（秘密）を短縮したもらしい、理由は、ブラツクマジシャン達精霊の力を世間が知ったら、利用するかもしれないから、だって、…うん、なんかますますゼル○と同じ理由っぽいと思うのは俺だけか？…まあ、ブラックm…シークは名前をもらって嬉しそうだったのでよしとしよう。で、今は無事退院し、亀のゲーム屋で遊戯、城之内とデッキを作って、試作デュエルをし終わり、家に帰っている途中だ。

「おい、貴様、私と戦え。」

いきなり話しかけてきたのは、ウィジャトのマークがあるフードをかぶっている男たちだった。全員額にウィジャトがあるから、おそらくマリクだろう。

「…何のようだ、レアハンター…いや、マリク・イシュタール。」

「っ！？やはり、数日前から部下にお前を見張らせていたが、なぜ貴様が我ら墓守の秘密などを知っている！？」

「ふっ、他にも知ってるぜ。グールズのボスマリクさん。」

「っ！？ふっ、いいだろう！この千年ロッドで記憶を探ってどうい
て知ったのかを見させてもらう！」

シーク、頼むぞ。

『はい、黒・魔・導！』

「ぐああああ！？」

驚いてる驚いてる。…？なぜ驚く？

何故デュエルモンスターズカードが実体化したぐらいで驚く…？
闇のゲームで実体化するだろ？

「君も何らかの闇のゲームができるようだね…そして、どうやら君に洗脳術は効かないみたいだ…ならこうしよう、天月、僕とデュエルしろ！」

「…いいぜ、やってやるよ。」

ラーはデッキに入ってなく、しかもそれは扱いにくいエグゾディアデッキ。

少なくとも、俺のいた世界じゃ1枚しか入れられなくても揃える奴がわんさかいるからな。

「さあ行くぜ！」 「^{デュエル}決闘！！！」

遊夜LP4000 レアハンター（マリク）LP4000

「俺のターン！ドロー！」

遊夜 手札5 6

「俺は魔導騎士ディフェンダー（ATK1600）を召喚！そして

ディフェンダーに魔力カウンターが乗る！」

ディフェンダー 0 1

「そして、カードを二枚伏せ、ターンエンドだ。」

遊夜 手札 6 3

場

・ディフェンダー（ATK1600）

・魔法カード

・罾カード

「僕のターン。ドロー。…ふむ、僕は、サファイア・ドラゴン（ATK1900）を召喚、そして、スタンピングクラッシュを発動、デッキ側のセットを破壊。そして攻撃！」

「何！？ぐううう！」

遊夜 LP 4000 3500 3200

場

・ディフェンダー（攻1600）

・魔法カード

つう…あのエグゾディアデッキ、防御型デッキじゃなかったのかよ。

「だが！ディフェンダーの効果！魔力カウンターを取り除き、破壊を無効！」

ディフェンダー 1 0

「私は魔法カード発動、強欲な壺、カードを二枚ドロー、そして天使の施し、カードを3枚ドロー、そして2枚捨てる、さらにカードを一枚伏せ、ターンエンド。」

レアハンター 手札5 6 4 5 7 5 4

・ サファイア・ドラゴン（ATK1900）
・ 魔法カード

「エンドフェイズ時、リバーズ発動！速攻魔法サイクロン！そのセツトカードを破壊する！」

そして俺のターン！ドロー！俺はディフェンダーを生贄にし、サイバネティック・マジシャン（ATK2400）を召喚！そしてバトルフェイズ！サイバネティックでサファイア・ドラゴンに攻撃！」

「ぐっつー！」

レアハンター LP4000 3500

「（これ以上何もできない…）ターンエンド。」

遊夜 手札3 4 3

・ サイバネティック・マジシャン（ATK2400）

「私のターンドロー。…モンスターをセットし、ターンエンドだ。」

レアハンター 手札3 4 3
場

・セットモンスター

「俺のターンドロ―！俺は魔導騎士ディフェンダー（ATK1600）をもう一体召喚！そしてサイバネティックの効果発動！手札を一枚捨て、ディフェンダーの攻撃力を2000にして、2体で攻撃！」

サイバネティック・マジシャン（ATK2400） 起動砦のギア・
ゴーレム（DEF2200）

「そしてディフェンダーでダイレクトアタック！」

レアハンター LP3500 1500

「お前、大したこと無いな、カードを伏せ、ターンエンド。」

遊夜 手札3 4 3 2
場

・サイバネティック・マジシャン
・魔導騎士ディフェンダー

「くっ、ドロ―…！ふふふ…モンスターとカードををセット、光の護符剣を発動、そして天よりの宝札！私はカードを6枚ドロ―。ターンエンド。」

「俺は4枚ドロ―」

・・・お前3枚ずつ入ってるエグゾディア引いてねえのか!?

レアハンター 手札3 4 1 0 6
場

- ・セットモンスター
- ・罨カード
- ・光の護符剣

だが、表マリク、選択をまちがえたな。

「俺のターン！ドロー！死者蘇生を発動！来い！ブラックマジシャン！（ATK2500）そして強欲な壺！効果でカードを二枚ドロ！いま引いた千本ナイフを使い、お前のセットモンスターを破壊！そしてもう一枚、黒・魔・導を発動！その光の護符剣とセットカードを破壊！」

遊夜 手札6 7 6 7 5

場

- ・ブラックマジシャン（ATK2500）
- ・サイバネティック・マジシャン（ATK2400）
- ・魔導騎士ディフェンダー（ATK1600）

「くっ…セットモンスターはマシユマロン…。そして、セットカードは聖なるバリアミラーフォース…。くっそおおお！」

「3体で止め！」

「ぐあああああああああああああああああ！！」

レアハンター LP1500 - 1000 - 3400 - 5000
遊夜 LP3200

「くっう！…僕が負けるとは…！」

「やはりそれはレアハンターのなかで最弱と言われていた奴のデッキか。」

「そうだ、なぜそれを知っているか知りたいが、敗者に言い分はない、負けは負けだ。悔しいが、今回はここで引くよ。」

そう言っつてグルズ全員去っていった。変なところで素直だなマリク。

…あ、そっいやここ表側守備出来たな…しまった、プレイミスしてしまったか。

そっいやこのあとに城之内真紅眼取られるんだっけ？

遊戯が海馬に勝つためにも、マリクの洗脳術を解くためにも遊戯が持ってなきゃいけないよな。

さて、どっかのホテルに泊まって寝るか。

グールズ（後書き）

初期手札は、シーク、ディフェンダー、サイクロン、マジシャンズ・サークル、死者蘇生で、次に引いたのがサイバネティック・マジシヤン、その次がディフェンダー、そして最後が強欲です。

海馬戦…積み込み？DM6よりはましだ。(前書き)

はい、デュエルというのは難しいですね。やるのは簡単なのに…詰めデュエル考える人はすごいですね。

海馬戦…積み込み？DM6よりはましだ。

俺は今日、海馬コーポレーションにいる。というか、ホテルで寝て朝起きたらここにいた。

「ふうん…貴様が遊戯の言っていた決闘者か。」

そして、目の前に海馬瀬戸がいる。

「はぁ……。」

そう、遊戯が海馬に俺のことを話してしまい、興味をもたれたようだ。

「ふうん、まあいい、おい、貴様、俺と戦え。」

「いいえ……ですよ。」

あぶね、デュエル脳が活性化して言葉使いが……！

「ふうん、ではKCの屋上に来い。あとは頼むぞ、木馬。」

「ハイ！兄様！俺が連れていくよ。」

あ、木馬だ。後半いいキャラなんだよな、兄思いだし。

「ああ、頼むよ。」

ということで

「頑張れよー！遊夜ー！」

「頑張つてー！遊夜君！」

なんか来たたら遊戯や城之内たちのギャラリーが…？あれ？バトルシティって今日じゃ…。

「何を言っている、もう始まっているぞ、バトルシティ。」

え？

「ふうん、遊戯がライバルと認めた貴様を倒そうと宣伝したら集まった。そしてこのデュエルはリアルタイムで放送される。」

…ええ…。

しかも遊戯のやつ俺をライバルとか…そりゃ海馬にも興味持たれるぜ。

「…後には引けないか…いいよ、戦おう。」

「行くぞ！」

「『デュエル！！』」

海馬LP4000

遊夜LP4000

「俺の先攻！ドロー！」

海馬 手札6

「ふうん。俺はブラッド・ウォルス（ATK1900）を召喚！カードを2枚伏せ、ターンエンド。」

海馬 手札6〓3

場

・ブラッド・ウォルス（攻1900）

・魔法

・罾

・・・なんかデツキ破壊きそうなんだぜ・・・。
だが！俺は負けない！

「俺のターン、ドローする。」

遊夜 手札6

手札にはブラッドウォルスを倒せるカードがあるが、どうするか・・・。

「・・・俺は召喚僧サモンプリースト（守1600）を召喚。カードを2枚をセット、ターンエンドだ。」

遊夜 手札6〓3

場

・サモンプリースト（守1600）

・魔法

・罾

いや、ここは耐えよう。

「俺のターン！ドロー！ふうん！やられ専門の雑魚モンスターか。そんなもの蹴散らしてくれるわ！ブラッドウォルスの攻撃！「速攻魔法発動！デイメンション・マジック！」なに！？」

「効果で魔法使い族をリリ、生贄にし、手札から、来い！ブラック・マジシャン！」

『早速、おでましですか。』

ああ、頼むぞ。シーク。

「効果発動！フィールドのモンスター一体を破壊！」

「ふははははははは！それにチェインし、リバースカードオープン！収縮！そして死のデッキ破壊ウイルス！これで貴様のモンスターは抹殺だ！」

海馬が高笑いを始める。

「あのデッキ破壊コンボ！？」

「やばいぜ！？どうすんだ遊夜！？」

・・・これ、一回言ってみたかったんだよな。

「そいつはどうかかな？」

「なに？」

「リバーズ発動！永続畏、王宮のお触れ！」

「な、なにに！？」

「魔法、畏の無駄打ちになったな。効果で畏は無効化される！ブラット・ウォルスは破壊だ！」

「くう！・・・モンスターをセット、カードを伏せ、ターンエンドだ。」

海馬 手札3〓4〓2

場

・セットモンスター

・魔法

「俺のターン！」

遊夜 手札4

「俺はフィールド魔法、魔法族の里を発動！その効果でお前は魔法を発動できない！」

「ロツクだと！？」

「そうさ！これが俺の戦い方さ！俺は魔法カード発動！強欲な壺！」

遊夜 手札4〓3〓4

「さらに！ブラックマジシャンをリリースし、ブラックマジシャン
ガール（2000）を召喚！そして魔法カード発動！賢者の石サバ
ティエル！こいつはLPを半分使い、自分デッキ、墓地から好きな
カード一枚手札に加えたあと、デッキに戻る。俺は賢者の宝石を選
択！」

遊夜LP4000〃2000

「ふっ、俺は今、手札に加えた賢者の宝石を使い、デッキからブラ
ックマジシャン（攻2500）を召喚！」

『今日は何度も召喚されますね。』

「またブラックマジシャン……。」

「スゲエ……。」

「レベル7をいとも簡単に何度も……。」

「兄様が押されてる……？」

「バトル！ブラックマジシヤンガールでセットモンスターを攻撃！
ブラック・バーニング
黒魔導爆裂波！」

「セットモンスターは鉄腕ゴーレム（守2200）！2000では
破壊され……なっ！？」

「ブラックマジシヤンガールは墓地のブラックマジシヤン1体につ
き300攻撃力を上げる。よって攻撃力2300！そしてブラック
マジシヤンの追撃！黒・魔・導！」

ブルーアイズ達よ！その雑魚共を蹴散らし、我が手に勝利を収めよ！
滅びのバーストストリーム！！」

3体の攻撃を受けたらLP1400になるが、まだ甘いぜ海馬！
この王宮のお触れが場に出ている間、罨が発動できないだけで、無くなればいいんだからな。

「速攻魔法発動！サイクロン！効果で王宮のお触れを破壊！これで罨がつかえる！」

「だが、ロードオブドラゴンが居る限り、ブルーアイズ達に魔法、罨は効かない！」

「知ってるさ！リバースカードオープン！聖なるバリアミラーフォース！これで、ロードオブドラゴンだけは破壊する！」

「だが攻撃は止まらぬぞお！」

「ぐっ。」

遊夜LP2000＝1300＝800 手札2

場

・魔法族の里

「ふうん、善戦したが、これで終わりだ。カードをセットし、ターンエンド。」

海馬LP1500 手札1

場

・青眼の白龍（攻3000）

- ・青眼の白龍（攻3000）
- ・罨

『遊夜、大丈夫ですか！？』

「ああ、大丈夫だシーク…。俺の・・・ターン！」

遊夜LP800 手札3

ドローカードが…光った？…ああ、TFのデステイニードローか。

「…俺は！魔導騎士ディフェンダー（攻1600）を召喚！そして魔法カード、死者蘇生を発動！甦れ、ブラックマジシャン（攻2500）！」

「モンスターを召喚してダイレクトアタックを防ごうとしているのか…甘いな。」

なんでそう勝手に決めつけるかな…。

「違うぜ・・・攻撃表示だ！手札から天よりの宝札を発動！」

このカードに賭ける！

「ふうん、俺は5枚ドロー。」

「俺は6枚ドロー。…！」

また来てくれたか、サバティエル。

「賢者の石サバティエルを発動！LPを半分にし！デッキから黒の魔法神官を手札に加える！また、ディメンション・マジックを発動！ディフェンダーを墓地に送り、現れる！サイバネティック・マジシャン！効果で青眼の白龍を破壊！」

遊夜LP400 手札3=6=4

場

- ・ブラックマジシャン（攻2500）
- ・サイバネティックマジシャン（攻2400）
- ・魔法族の里

「ふはははは、そんなものじゃ俺のブルーアイズには勝てん！」

「魔法カード、一族の結束を発動！この効果は墓地にあるモンスターの種類が1つだけの時、その場にいる同じ種族のモンスターの攻撃力を800上げる！」

「なん・・・だと・・・？」

ブラックマジシャン（攻2500=3300）

サイバネティック・マジシャン（攻2400=3200）

「サイバネティックの効果！手札を一枚捨てることに場のモンスター1の攻撃力を2000にする！」

青眼の白龍（攻3000=2000）

「そして場のレベル6以上の魔法使い族2体を生贖にし、こいつを特殊召喚する、来い！黒の魔法神官（攻3200）！」

「こ、攻撃力が3000のブルーアイズより高い…だと…!?!」

「きたよ遊夜君のエースモンスター!」

「ああ、きやがったぜ!」

あれ?なんか勝手にエースになってるな黒の魔法神官。…まあいいか。

「一族の結束の効果で攻撃力4000!」

「俺のオベリスクと同等だと…!?!」

「黒の魔法神官の攻撃!」

「くっ畏カード発ど!無駄だ!黒の魔法神官が場にあるとき、畏カードの発動と効果を無効にできる!」ば、馬鹿な!?!」

「くらえええ!」 「ぐあああああああああ!」

海馬LP1500||1500

遊夜LP800

…実際、黒の魔法神官出さなくても勝ってたな。なんか出したら海馬に精神ダメージがあるかと思ったがそのとおりだったな。破壊輪か…どっちみち手札のデイモンション・マジックで勝てたな

「遊夜の奴、海馬に勝ちやがった…。」

「すごい…やっぱりすごいよ遊夜君は！」

「そんな…兄様が負けるなんて…。」

「…あれ？これ全国放送ネットだっけ？…」（冷や汗ダラダラ）

『調子に乗りましたね…。』

しまった…。

「くっ、パズルカードだ…そして、…このカードを…」

…げっ、オベリスク…。

「…知らない、それはあんたが持つてるほうがいいでしょう。パズルカードだけでいい。」

だろうな。一応こんな召喚の重いカードもらっても意味ないし、一族も無意味になるし。

「むう…ルールはルールだ…。」

うん…なら…。

「ならば、代わりに魔法使い族のカードをいただけますか？」

「ふうん、なら、我が社にあるカードを一枚好きなものを持っていくがいい。」

「ありがとうございます。」

…バトルシティが始まったか。
俺はいつたいどうすりゃいいんだろつな。

『自分の好きなように生きよう。あなたがそういったんじゃないですか。』

シーク…

「そうだな。じゃあ、このバトルシティで優勝を目指すか。」

『はい、遊夜の仰せのままに。』

よーし！待ってる！俺の、俺たちのバトルシティ！

海馬戦：積み込み？DM6よりはましだ。（後書き）

はい、拉致です。拉致されました。バトルシティ編では、レアハンターを倒し、真紅眼を手に入れ、別れて、羽賀を倒し終わった時間帯ですかね。・・・あれ？時間なくね？

あと、鉄腕ゴーレムは原作でもレベル5です、原作だから何でもアリで・・・。

主人公設定 ～バトルシティ編～（前書き）

えー、まず、バトルシティに入る前に（もう入ってますが）主人公、天月遊夜の設定を書いておこうと思います。

主人公設定 ～バトルシティ編～

あまつぎ
天月 遊夜

【年齢】

16歳（転生前）

十代達と同年代（転生後）

【容姿】

転生前

黒髪黒目、中立的な顔立ち

転生後

金髪青目、目付きは鋭いが、少し子供っぽい

（某黄金の正三角を宿す勇者）

【性格】

クールに振舞おうとはしているが、なることができなく、すぐ熱くなる熱血漢

仲間を侮辱されたり、デュエルのことになると手がつかなくなる。

しかし、本気でキレると…

【好きなもの】

・デュエル

・ゲーム

・友達

【嫌いなもの】

・仲間を侮辱する者

- ・デッキを批判するもの
- ・辛いもの全般

【運動神経】

普通は十代と同じ感じ

魔力を纏へうとオリンピック選手顔負けの運動神経

精霊と同化（十代みたいに）するとレベルに応じてさらに運動能力が上がる

【能力】

ドロー力 【A+】 デッキ構築能力 【B】

頭脳 【B+】 状況判断力【A】

運 【A-】 デュエルタクティクス【A-】

使用するデッキ

【マジシャンズ・ロック】：魔法族の里や王宮のお触れなどでロッキしながらデイメンション・マジックなどで上級モンスターを召喚するデッキ。主にブラック・マジシャン（シーク）を主体にしたデッキ

【????】

魔力カウンターを主軸に組んだデッキ

備考

遊夜の生前に使っていた魔法使い族をデッキを改良したデッキ、こっちは制限リストなどが緩いので、生前に比べると性能はまあまあ上がっただが、元のデッキが弱いので、本当にまあまあである。

【特殊スキル】

精霊魔導士

魔力^{ヘカ}を使い、戦闘をする魔導士、ブラック・マジシャン（シーク）に師事してもらい、なったもの、魂^バに宿りし精霊と同化できるが、遊夜は分離もできる。でもあまり意味はない

闇のゲームプレイヤー

カードの精霊を実体化できるので、その精霊と自身の魔力^{ヘカ}を使い、ゲーム自体を闇のゲームにできる、だが、不安定なので、LPでダメージを受けたら精神的ダメージを与えられるが、負けても意識を失う（死ぬ）ことはない。

備考

生前はただの高校生だったが、神の手違いにより、遊戯王の世界に転生する。

デッキ作りはあまり得意じゃなく、（作者の力量がダメなわけです）回りそうにないが、精霊が近くにいると、デッキを信じているので回っている感じ。また、記憶の世界と遊戯王GX3期に備え、シークに精霊魔導士にしてくれと師事してもらったので、なんとかなれた。結構喧嘩に強い

主人公設定 くバトルシティ編く（後書き）

…挿絵もしたいんですが、どうすればいいでしょう、誰かやり方を教えてください。

来いよ虫野郎！（前書き）

はい、H A G Aです。ずっと俺のターンです。でも、意味はありません。芳賀に精神的ダメージを大幅に与えるための大量展開みたいな感じですか。何か羽賀ってこういうのに弱そうですからね（笑）

来いよ虫野郎！

今俺は海馬コーポレーションを離れ、対戦相手を探しに歩いているが、

「…はあ…やっぱり、俺見るたびにみんな逃げてくよな、シーク。

」

そう、あの海馬を倒した俺を見るたびに、対戦相手が逃げていくのだ。

『仕方がないですよ、それだけのことをしてしまったのですから。』

誤解を招く言い方はやめてくれ、俺は普通に決闘しただけだ。

『それが、今の原因ですよね…。』

これじゃ、バトルシティ勝ち残れそうにないぞ…

『あきらめないでくださいよ、遊夜。』

当たり前だぜ、しかしやばいぞ…、…どっかそこらへんのやつ捕まえて無理やり決闘するか…？

「ひょく、っひよ、っひよ、っひよ。」

…この間に触るつぎったらしい声は…

「お前があ海馬瀬戸を倒した天月遊夜か、おい、俺と決闘しろ！」

…やっぱり羽賀が、いいだろう、返り討ちにしてやるぜ！

「いいぜ。」

「「決闘デュエル！！」」

遊夜LP4000

羽賀LP4000

「俺の先攻！ドロー！」

あれ、やっぱり早いもん勝ちなのか？先攻って

羽賀 手札6

「俺はヘラクレスビートル（攻1500）を召喚！そして、カードを伏せ、ターンエンドだ！」

あの顔からして、伏せは攻撃反応型…竜崎を倒したあのカードっばいな。

羽賀 手札4

場

・ヘラクレスビートル

・罨

（次のターン、お前は終わりさ！このセットカードはメサイアの蟻地獄、そして手札には代打バッター、インセクト女王クイーン、殺虫剤がある、もちろん仕組んだものだけ、これで俺の勝ちだひょく、ひよっ

ひよー！！）

…なんかイカサマしてそうだな羽賀のやつ…ありえそうだ。だが、残念だがお前に次のターンは、回ってこない。原作で読んだとおり、召喚反応型、カウンターカードなどは入っていないことは分かっているからな！

「俺のターン！ドロー！」

遊夜 手札 6

「俺はマジカル・コンダクター（攻1700）を召喚！そして魔法カード、強欲な壺を発動、2枚ドロー魔法族の結界を発動、効果でマジカル・コンダクターにカウンターが2つ乗る、そして、光の護符剣、カウンターが2つ乗る、そして、ハリケーン、全ての魔法、罨を手札に戻す、カウンターが乗る！」

「お、俺の罨が…。」

遊夜 手札 6 4 5

場

・マジカル・コンダクター（攻1700） 魔力カウンター 8

そして、魔力カウンター6つを取り除き、手札から取り除いたカウンターと同じレベルのモンスターを手札から特殊召喚できる。来い、ブラック・マジシャン・ガール（攻2000）！」

「はっ、ははは！何が出るかと思ったら、レベル6のくせに攻撃力2000の雑魚モンスターか。」

…雑魚だと？

「おい、今なんて言った？」

「は？聞こえなかったのか？雑魚といったんだ。」

…こいつ、人のカードを海に捨てるわ、人のデッキに勝手にカードを入れるわ、今度は人のカードを雑魚よわばりだと？絶対に許さねえぞ。

「…俺は、魔法カード発動、賢者の宝石、こいつはブラック・マジシャン・ガールがいる時、デッキ、手札からブラック・マジシャンを特殊召喚できる、来い、ブラック・マジシャン シーク（攻2500）。」

「な、なんだと…そんなカードがあるなんて聞いてないぞ…。」

お前はヘラクレスビートル（攻1500）1枚、こっちは1700、2000、2500、これでもう勝てるが、人のカードを侮辱した罪は重い、まだまだいくぜ。

「マジカル・コンダクターにカウンターが乗る、そしてさっきの魔法カード2枚、光の護符剣、魔法族の結界を発動、カウンターが4乗る」

マジカル・コンダクター 8

「そして、命削りの宝札を発動、カードを5枚ドロウ、マジカル・コンダクターに（ry）」

マジカル・コンダクター 10

遊夜 手札 5

場

・マジカル・コンダクター（攻1700） カウンター10

・ブラック・マジシャン・ガール（攻2000）

・ブラック・マジシャン（攻2500）

・光の護符剣

・魔法族の結界

…うん、相手もう震えてるぞ、だが、手加減はしない！

「手札から魔法カード魔法族の里を発動、効果でカウンター（ry

マジカル・コンダクター 12

「そして、場の2体のレベル6以上の魔法使い族を生贄にし、来い、黒の魔法神官（攻3200）！」

「あ、ああ…。」

「手札から魔法再生を発動！効果で魔法カードを1枚手札に加える！」

これ、絶対禁止カードになるよね、だってノーコストで強力な魔法カードに変わるんだぜ？

「俺はハリケーンを手札に戻す。そして発動。」

遊夜 手札 5 3 5

場

- ・マジカル・コンダクター（攻1700） 16
- ・黒の魔法神官（攻3200）

この手札の内、3枚は一定のカードだ、ならば、

「賢者の石サバティエルを発動、LPを半分払い、このカードをデッキに戻したあと、効果でデッキか墓地からカード1枚を手札に加える。打ちでの小槌を手札に加え、発動！このカードと魔法カード3枚をデッキに戻し、4枚ドロ！効果で（ry」

マジカル・コンダクター 18

遊夜LP4000 2000

手札6

…フツ、いいカードが舞い込んだ。

「死者蘇生を発動！蘇れ、ブラック・マジシャン（攻2500）！そして速攻魔法カード、光と闇の洗礼を発動、ブラック・マジシャンを生贄に、デッキから、混沌の黒魔術士（攻2800）を特殊召喚！効果で墓地から魔法カードを一枚手札に戻す。俺は魔法再生を手札に加える。そして発動、死者蘇生を選択する。そして発動、効果でブラック・マジシャン（攻2500）をもう一度特殊召喚！！」

『遊夜、あなたは私を何度場に呼ぶのですか？』

…えつと…3回目だな。

『前世では一回でも召喚されれば多かつた方でしたよ…。』

マジカルコンダクター 26

遊夜LP2000 手札3
場

- ・マジカルコンダクター（攻1700） カウンター26
- ・ブラック・マジシャン シーク（攻2500）
- ・混沌の黒魔術士（攻2800）
- ・黒の魔法神官（攻3200）

「そして、死ねばもろとも！発動！お互いの手札が3枚以上の場合、手札を全て捨て、カードを5枚ドロ！。しかし、発動者は自ら捨てたカード数×100ダメージを受ける。俺は死ねばもろともを合わせ、3枚、よつて、300ダメージ！」

遊夜LP2000 1700

手札5

マジカルコンダクター 28

「そして、今引いた賢者の石サバティエルを発動、効果でデッキから打ちでの小槌を手札に加える。そして発動、手札をすべて戻し、5枚ドロ！」

遊夜LP1700 850

マジカルコンダクター 32

うん、俺ほんと何したいんだろ、エグゾディアを揃えるわけもなく、ただ、手札交換とかの魔法カード多様で魔力カウンター貯めてるだけじゃないか……。まあ、相手には何かしているみたいに感じ、絶望しているような表情をしているがな。

「…俺は、魔法カード発動、騎士の称号、ブラック・マジシャンを生贄に、デッキか手札からブラック・マジシャンズ・ナイト（攻2500）を特殊召喚、特殊召喚に成功したとき、相手モンスター1体を破壊する。」

「俺のヘラクレスビートルが！」

…ぶつちやけ、壁にもならないぞ。今の状況は。

「そして、魔法カード発動、早すぎた埋葬。こいつは800ポイント払い、墓地からモンスター1体を特殊召喚。俺はブラック・マジシャン（攻2500）を蘇生。」

『あなたは本当に…いくら私を呼び出せば…。』

…シーク、なんかほんとにゴメン。

遊夜LP850 50 手札5 3

場

- ・マジカルコンダクター（攻1700）
- ・ブラック・マジシャン（攻2500）
- ・ブラック・マジシャンズ・ナイト（攻2500）
- ・混沌の黒魔術士（攻2800）
- ・黒の魔法神官（攻3200）

…やりすぎたか…？だが、人のカードを侮辱する決闘者の風上にもおけない奴にはこの程度でもまだまだだが…これ以上やれないしな、10000越えのオーバークイルで許してやるよ。

「全員で虫野郎にダイレクトアタック！！
混沌五重魔法呪文
！」

「うわああああああああああああああああ！！！！！！」

羽賀LP4000 2300 1200 12700 15500
18700

「そしてデイメンション・マジック！ブラック・マジシャンズ・ナイトを生贄に、現れる！魔導騎士ディフェンダー（攻1600）そして追撃！！」

羽賀LP18700 110300

遊夜LP50

「そんなあゝ、この俺がワンターンキル、及びオーバーキルされるなんて〜。」

「あ、そうそう、俺、TV見てた頃から（見ていません）言ってみたかったけど、…お前、絶対弱いだろ。」

「ガーン！！（。°。———）」

「さてと、アンティルルだ、パズルカードとレアカードを渡してもらおう。」

「く、くっそー！！この俺がレアカードを2枚も奪われるなんて〜！！」

…究極完成体グレートモス…いるかこんなもの！！…別に、魔法使い族じゃなけりゃデッキに入れないがな。これでパズルカードは3枚、なまじ会場を知っているから行きたいが、6枚持ってないからさっさと集めるか。…イシズさん梓とつてもいいよな？さて、次の標的えものを探しに生きますか。

『遊夜、次はどこらへんを歩きますか？』

大通りに行こう、あそこなら人が集まるしな。

『そうですか、では行きましょうか。』

あと3枚、楽しそうに楽しまない道のりっぽいな…。

来いよ虫野郎！（後書き）

なんか、チートドロとドロ強化カードがすごいことに……。こんなはずじゃあ……。GXだったらあそこに一族の結束を使って更にと
思ったのですが、5枚しか置けないフィールドでは……。

竜崎…強くな？（前書き）

あれ？なんか時系列とか攻撃力とかがもう簡単に青眼の白龍を超えた・・・

竜崎…強くな？

さつき虫野郎を倒し、決闘者デュエリストを求め、大通りの方にやって来た、確かここには竜崎と紹場がいたよな…っと、いたいた、竜崎。

『次の相手はあの帽子をかぶった少年ですか？』

「ああ、一応年上だけだな。」

そう言い、竜崎に話しかける。

「おい、決闘デュエルしろよ。」

…遊星だね。あのセリフは名台詞だ。

「ああ？なんやワレ？ってお前は海馬瀬戸を倒した決闘者デュエリストやないか
「！」

一応、俺のことは知ってるだな。

「ああ、日本大会2位の实力を持つあんたと戦いたくてね。」

実際、楽に倒せるから。

「へえ、あんたにそんな評価をもらっとるなんて光栄やわ。いいで、やったるうやないか！」

「ああ、だが、手加減はしない！」

さて、こいつは人のカードを侮辱したりする卑怯な真似はしないと
思うが、したらな・・・。

「^{デュエル}決闘！！」

遊夜 LP 4000

竜崎 LP 4000

「俺のターン！ドロー！」

遊夜 手札 6

まずは様子見をしてみるか。

「俺は魔導騎士ディフェンダー（守2000）を守備表示で召喚し、
カードを1枚伏せ、ターンエンドだ。」

遊夜 手札 4

場

- ・魔導騎士ディフェンダー（守2000） カウンター1
- ・畏カード

「ワイのターンや！」

竜崎 手札 6

「ワイはこのモンスター、この俊足のギラサウルス（攻1400）
を特殊召喚や！このモンスターは特殊召喚したとき、相手の墓地の
モンスター1体を相手の場に特殊召喚できるが、お前の墓地には一
体もモンスターはおらへん、よって、効果は無効になる！そしてワ

イはギラサウルスを生贄にして、暗黒トリケラトプス（攻2400）を召喚や！」

攻撃力2400、貫通効果を持つモンスターか、少しやばいか・・・？

「そして攻撃や！ 怪鳥けちよう ！！！」

「だが、ディフェンダーに乗せられたカウンターを取り除き、破壊を無効にする！！！」

「だが、貫通ダメージは受けてもらうで！！！」

遊夜LP4000 3600

「そしてワイはカードを2枚伏せ、ターンエンドや！！！」

竜崎 手札2

場

・暗黒トリケラトプス（攻2400）

・魔法

・畏

「俺のターンだ！！！」

遊夜 手札5

場

・魔導騎士ディフェンダー（守2000）

・畏

…あの竜崎がコンボか…、フッフ、楽しくなってきたぜ。

「俺は賢者の石サバティエルを発動、効果でLPを半分払い、このカードをデッキに戻し、墓地、デッキからカードを1枚選択し、手札に加える。俺は魔法カード、ディメンション・マジックを選択する。」

遊夜LP3600 1800

「そして俺は久遠くおんの魔術師ミラ（攻1800）を召喚、効果発動、相手のセットされたカードを確認出来る、これに対して魔法、罫は発動できない。」

右のセットカードは突進か。なかなか面倒なカードだな。

「俺はディメンション・マジックを発動。久遠の魔術師ミラを生贄に、来い！ブラック・マジシャン（攻2500）！！」

シーク…何故殆どデュエルの決闘で初期手札に来るのだろう？

「こ、攻撃力2500やと…!!?」

「そしてディメンション・マジックの効果でフィールドのモンスター一体を破壊、俺は暗黒トリケラトプスを選択。」

「そしてディフェンダーを攻撃表示（攻1600）にして2体で攻撃！デュアルマジック二乗合成魔法！！」

「へっ！ワイはリバーズカード発動！化石発掘や！こいつは手札を一枚捨て、墓地からモンスター1体特殊召喚できるんや！ワイは墓

地の暗黒恐獣ブラックティラノ（攻2600）を特殊召喚や！」

「もう一つのカードは蘇生カードだったか！くっ、攻撃を中断、カードを2枚伏せ、ターンエンドだ！」

遊夜 手札1

場

- ・ブラック・マジシャン（攻2500）
- ・魔導騎士ディフェンダー（攻1600）
- ・魔法
- ・魔法
- ・畏

「ふふふ、ワイのターンやで！」

竜崎3

場

- ・暗黒恐獣ダークティラノ（攻2600）
- ・魔法カード（突進）
- ・化石発掘

「ワイはこのままブラック・マジシャンに攻撃や！」

「俺は一族の結束を発動！場のモンスターの攻撃力を800もアップする！」

ブラック・マジシャン（攻2500 3300）
魔導騎士ディフェンダー（攻1600 2400）

「なら突進を発動や！！攻撃力700アップ！！」

暗黒恐獣（攻2600 3300）

「ハハハ相打ちや!」

「そいつはどうかな?」

「何やと!?!」

「俺は魔法カード、: 禁じられし聖杯を発動!場のモンスターの効果を無効化し、攻撃力400アップ!」

「し、しまったで、これなら魔導騎士ディフェンダーに攻撃しとけばよかったで〜!」

竜崎LP4000 3600

「くっ、ワイはモンスターを守備表示、そしてカードを1枚伏せ、ターンエンドや!」

竜崎 手札1

場

・ハイパーハンマーヘッド（守1200）

・罨

「俺のターン!」

遊夜 手札2

場

・ブラック・マジシャン（攻3300）

- ・魔導騎士ディフェンダー（攻2400）
- ・一族の結束
- ・畏

…バウンズカードか、厄介だな…。

「俺はディフェンダーで攻撃！」

「ハンマーヘッドの効果でディフェンダーをバウンズや!!」

「ならブラック・マジシャンでダイレクトアタック！ 黒・魔・導ブラック・マジック!!」

「ちよいまちや!! ヒーロー見参発動や! わいの手札は1枚、よつてこのカードアルティメット・ティラノ究極恐竜（攻3000）を特殊召喚や!!」

「攻撃力3000だが、楽に倒せるぜ!!」

「くうう…!!」

竜崎LP3600 3300

「俺はもう一度魔導騎士ディフェンダー（守2000）を召喚しターンエンド。」

遊夜 手札3

場

- ・ブラック・マジシャン（攻3300）
- ・魔導騎士ディフェンダー（守2000）
- ・一族の結束

遊夜LP 1800 1300

「わいはカードを2枚伏せ、ターンエンドや。」

竜崎 手札2

アルティメット・ティラノ

・究極恐竜

・魔法

・畏

くっ、何が楽に倒せるだ！完全に舐めていた。原作では負けっぱなしだったが、実際は日本大会2位まで行ったんだ。これから、気を引き締めるよ俺！！

「俺のターン！」

遊夜 手札7

場

・ブラック・マジシャン（攻2500）

・魔導騎士ディフェンダー（守2000）

このカードは！！

「俺はこのカード、魔術の呪文書を発動、この効果でブラック・マジシャンの攻撃力を1000アップ！3500だ！」

「それにチェーンして、サイクロン！それを破壊や！！」

マジで何があった竜崎、別人じゃね！？

「だが破壊されたことでLP1000回復。」

遊夜LP1300 2300

「ちいつ、LP回復か!!」

「俺はガガマジシャン（攻1500）を召喚！そして効果発動！俺が宣言するレベルは7！」

「レベルを宣言して…？まさか!!」

「そう、そのまさかさ！ガガマジシャンとブラック・マジシャンを生贄に、黒の魔法神官（攻3200）を特殊召喚する！」

「攻撃力3200…！さすがやで…！！（だがセットカードは収縮これで…!!）」

「俺はフィールド魔法発動！魔法族の里を発動!!」

遊夜 手札3

場

- ・黒の魔法神官（攻3200）
- ・魔導騎士ディフェンダー（守2000）
- ・魔法族の里

「それにチェインして収縮！！黒の魔法神官の攻撃力を半減させるで!!」

黒の魔法神官攻3200 1600

「つつ！カードを2枚伏せ、ターンエンド。」

遊夜 手札1

「ワイのターン！！」

竜崎 手札3

場

アルティメット・ティラン

・究極恐竜（攻3000）

・罨

「ワイはもう一体のギラサウルスを特殊召喚（攻1400）！！さあ、墓地からモンスターを召喚しいや！！」

「俺はブラック・マジシャンを（守2100）で召喚！」

「そしてワイは2体を生け贄に、こい！超伝導恐竜（攻3300）
スーパーコンダクターティラン

！！」

「げっ！3300…！！」

「そして攻撃や！！」

「ぐっ…！！俺は罨カード発動！時の機械、タイムマシーン！！これは特殊召喚扱いではないから黒の魔法神官にも適応！！」

「ちっ、結局罨はつかえへんか！！」

遊夜 LP 2300 2200

「ワイはターンエンドや!!」

竜崎 手札1

場

スーパーコンピュータティラノ

・超伝導恐竜(攻3300)

・罨

「俺の…ターン!!」

遊夜 手札2

・黒の魔法神官(攻3200)

・ブラック・マジシャン(守2100)

・魔導騎士ディフェンダー(守2000)

・魔法

・魔法族の里

「俺は、魔法カード発動！賢者の石サバティエル！LPを半分払いデッキに戻し、魔法カード、一族の結束を手札に戻す!!」

遊夜LP2200 1100

「そして発動!!」

黒の魔法神官(攻3200 4000)

ブラック・マジシャン(攻2500 3300)

魔導騎士ディフェンダー(攻1600 2400)

「…ワイの負けか、クソっ！悔しいなあ!!」

「ああ、だが、お前はすごかったぜ!」

「そう言ってもらえば悔しいが少し嬉しいわ！」

「また、決闘デュエルしよう!!！」

「ああ、またいつかな!!！」

竜崎LP3300 2600 1700 13100

「楽しかったぜ!竜崎!!！」

「ああ、負けはしたが、いい決闘デュエルやった!!！」

「今度はアンティなしで決闘しよう!!！」

「ああ、ワイのカード、超伝導恐竜をやるわ。」

「いや、いらぬ、それはお前が持つてるからこそ輝く。」

「そうなんか?でもアンティルール…」

「俺がいつて言ってるんだからいいんだよ。パズルカードだけで。」

「そ、そうか、ありがとうな!!！」

「ああ、またな!!！」

真紅眼奪われたあいつ、結構かわいそうだったからな。自業自得だが。

『結構いいデュエルでしたね。』

「ああ、あいつ、王国からあそこまで成長してるなんてな……だけど、なんで竜崎、紹場に負けたんだ？」

『わかりませんが、紹場という決闘者デュエリストはあそこにいますよ。』

「そうか、じゃあ、あいつに決闘挑もうか。」

『分かっていますよ。遊夜。』

竜崎…強くな？（後書き）

竜崎いいキャラにしすぎたかな・・・？個人的に好きなんですよ竜崎。攻3300…ヤヴァイ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0816x/>

遊戯王 魔法使いを使う決闘者

2011年10月14日02時01分発行